



Q わが家の契約のとき、
祖母から「潮のいい
ときにティンダテ(起工式)
しなさい」と言われました。

友達は「潮の満ちるときが
いい」と言う人と、「引くと
きがいい」と言う人がいて
真反対です。地鎮祭は地面
の上で行うものですか、海
の潮のことまで気にしなく
てもいいですよね？
(本部町・Gさん・30代・女性)

A 『ティンダテ』または
『ティンダテイ』は、手
斧立て(テオノダテ)ともい
います。その昔、セークスーシ
(大工の棟梁)さんが建築に
あたり、「お家を建てます」と
のウトウシ(報告)を、ミー
ジーチヌカンガナシーメー(御
土地之神加那志前)という土
地の神様に行っていた儀式が
語源だとか。

大工道具のチョーナ(手斧・
鉋)などを地面に置き、地域
によっては一升瓶やマース
(塩・ハナグミ(花米)・アライ
グミ(洗米)を敷地全体やユス
ミ(四つ角)に撒きながら、そ
の土地に敬意をはらいつつ、住
宅建築を始めたとの資料を
見たことがあります。「いき
なり、敷地に住宅を建てた
ら、その土地の神様がびっく
りするからね」という先輩
方の言い伝えも、このティンダ
テの意味を知ると、とても理
に適っているように思えます。

事前報告の一環なのでしょ
うね。

一説には、このティンダテを
行ったセークスーシさんが「上
等ヤー(家)を造りましたの
で、ミーマントーティクミソー
リヨースイ(見守つてくださ
い)」との意味合いで、天井裏
に掲げる『紫微鑿駕(しびら
んか)』を筆とシミ(墨)で書
かれていたというお話も、地
元の先輩方から聞いたことが
あります。

潮汐と慶事・弔事との関係

潮のことを正しくは潮汐
(ちようせき)といい、太陽と
月の引力により、海面が上昇
したり下降したりする自然
現象のことを指します。一般
的に、潮と汐の区別は曖昧な
ことが多く、どちらも「しおの
干潮・満潮を表す」ととらえ
られることもあります。

本来、潮とは、漢字のつく
り(右側)から「朝方のしお」
を表し、汐とは「夕方のしお」
を表すのだそうです。この括
大解釈として、『満潮に向か
う・しお』のことを潮、『干潮に
向かう・しお』のことを汐とい
うこともあります。この潮汐
には、このような自然現象と
しての気象(海面)潮汐と、増
える(満ちる)・減る(干る)の
考え方から、人生の冠婚葬祭
(慶事・弔事)に関連して、お
祝い事や悲しみ事に応用する

慶弔潮汐があります。

お祝い事は満ち潮に乗せて 悲しみ事は引き潮へ

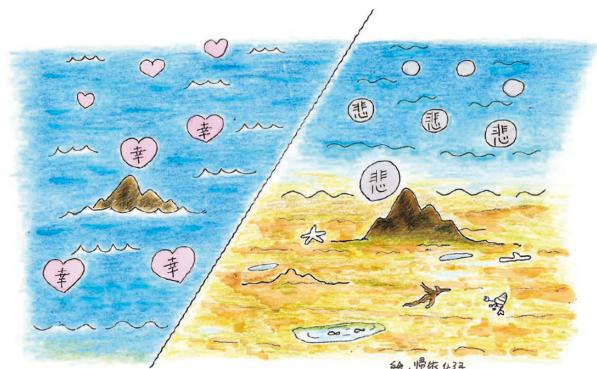
慶弔潮汐の『お祝い事は満
潮へ、悲しみ事は干潮へ』と
は、海洋地域にあつてよく耳
にする格言です。これは、『幸
せは満ち溢れますように、憂
いは幸せへと繋がりますよう
に』との思いからだど、地元
の先輩方からムンナレー(もの
習い)したことがあります。

満潮は、もちろん幸せの象
徴でもあります。一方の干
潮を減るとか無くなるとい
うマイナスに捉えず、満潮に
至るための過程、ワンステッ
と考えられることが、沖縄の
しきたりの素晴らしさなので
しょうね。究極のプラス発想
だと思えます。

起工式(地鎮祭)は 満潮？ 干潮？

この考え方からしますと、
グスージ(お祝い)に該当す
る住宅起工式は、「潮が満ち
溢れている」潮汐の干潮から
満潮へ向かう時間帯という
こととなります。

例えば、午前9時が干潮
で午後3時が満潮であれ
ば、午前9時1分から午後
2時59分までの間に起工式
を行えばよいということにな
ります。



潮汐の時間は、気象庁など
の『MIRC方式』という計算
方法が一般的ですが、沖縄や
奄美地方には、昔からの計算
方法として、『八・六方式』が
あるといえます。本島北部地
域の起工式では、「カレンダー
の干潮・満潮は那覇港の計算
だから、今日の地鎮祭は名護
港の干潮・満潮へ合わせま
しょうね」と、その地域の潮
汐を重視する先輩方からの
アドバイスも耳にすることも
あります。

おばあちゃんからの尊いア
ドバイスは、ありがたいクガニ
クトゥバ(黄金言葉)ですの
で、近隣の港(住まいからし
て、本部港?)の潮汐を計算
され、その時間帯を参考にし
ていただければと思います。